優秀賞

自まんのおじいちゃん

福岡県　塔野小学校　五年
伊東　佑惟

「夏休みは朝のお見送りがないけ、じいちゃんの運動にならんけ、いけんね。」
と、おじいちゃんが言っていた。

わたしのおじいちゃんは８９才で、ゆっくり歩く。何時間もかかるような心臓の手術を 2 回もしていて、家ではトイレと食事のとき以外、ほとんどねてテレビを見ている。でも、わたしたちが登校するときは、必ずお見送りをしてくれる。そのときは、カサをつえ代わりにして、歩き方は少し速くなる。

朝のお見送りが始まったのは、心臓の手術をして、退院してから。わたしたちが小学校 2 年生になったときだ。

「めいちゃん、ゆいちゃんが、心配でたまらんけね。」
と、いつも言っていた。わたしたちの後ろから、学校の門までついてきてくれていた。弟が入学すると、

「一応おねえちゃんたちがおるけど、しんちゃんが心配やけね。」
と言うようになった。

わたしたちの後ろからついてきて、学校の門の近くになると、そこに立っているおばあちゃんといっしょに、お見送りをするようになった。登校してくる小学生たちに、

「おはようございます。いってらっしゃい。」
と、元気な声で言っている。

この４月からは、

「入学してきた１年生二人が心配やけ、じいちゃんが行ってやらな、いけん。」
と言うようになり、わたしは（心配なのは、わたしたちじゃないんだ）と思った。

その 1 年生たちは、ダンゴムシを拾ってくる女の子二人。ダンゴムシを見つけるたびに、うれしそうに止まる。見つけたダンゴムシを手に集めながら歩くから、なかなか進まない。車が通る道路の近くで、しゃがんで探しているから、少しあぶないと思う。

そんなとき、わたしのおじいちゃんはいつも後ろから、あぶなくないように見守っている。家族ではない子のことも心配になって、お見送りをしているおじいちゃんは、かっこいいと思う。それに、「急いで」とも言わずに、1 年生が歩くのを待っているのがやさしいな、と思う。

1 年生はダンゴムシに夢中で、わたしのおじいちゃんに気づいたときだけ、「おはようございます。」と元気に言う。それを聞いたおじいちゃんはうれしそうに、「おはようございまーす。」と言って、後ろからついて行く。

なんとおじいちゃんは、5 年生の女の子から『いつもありがとう』の手紙をもらったことがある。

「じいちゃん、ラブレターもらった。」
と笑っていた。おもしろかった。

わたしの妹が入学するまで、あと 2 年半。お見送りを元気に続けて、わたしの自まんの「みんなにやさしいおじいちゃん」でいてほしい。